

ハード交付金の活用事業

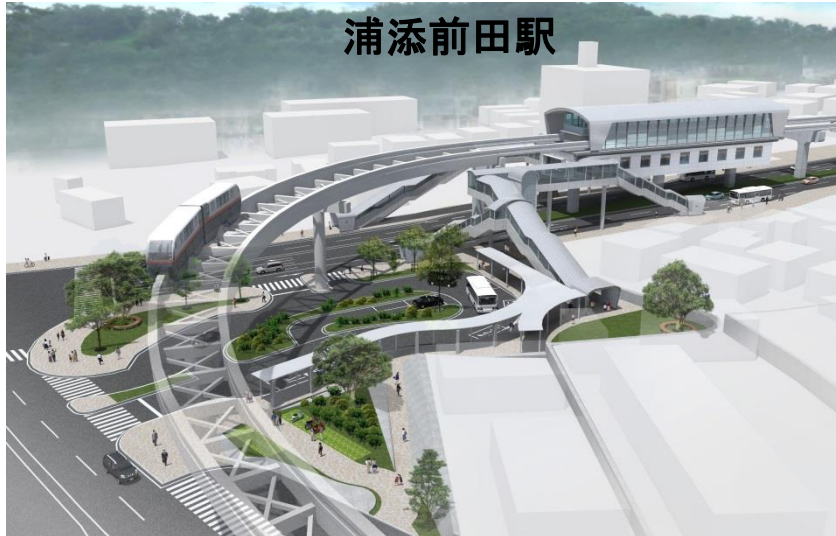
沖縄県事業

(都) 城間前田線

沖縄都市モノレールインフラ部0.7km
(道路整備事業)

沖縄都市モノレール延長事業は沖縄自動車道と連携し公共交通ネットワークを形成することで、沖縄本島中北部から那覇市圏域へのアクセス性を向上させるとともに、自動車交通から公共交通へ転換することで、交通渋滞の緩和に寄与する。

- 総事業費 91.1億円(うち国費82.0億円)
- 事業期間：平成24年度から平成30年度
- B/C：1.74(モノレール事業全体)



幸地インター線

インターチェンジ
(道路整備事業)

幸地インター線は沖縄都市モノレールと沖縄自動車道を連携し公共交通ネットワークを形成することで、沖縄本島中北部から那覇市圏域へのアクセス性を向上させるとともに、自動車交通から公共交通へ転換することで、交通渋滞の緩和に寄与する。

- 総事業費 50.0億円(うち国費45.0億円)
- 事業期間：平成26年度から平成30年度



県道 石垣空港線 (道路整備事業)

当路線は、平成25年3月に開港した新石垣空港と国道390号平得交差点を結ぶ路線で、新空港と石垣港が直結される重要な路線である。当該路線の整備により、新空港開港に伴う交通量増加による既存道路の渋滞緩和や事故の低減、市街地までのアクセス性向上を図るものである。

- 総事業費 95.33億円 (うち国費85.79億円)
うち、ハード交付金90.80億円
(うち国費81.72億円)
- 事業期間：平成21年度から平成31年度



完成イメージ図
(平成31年度供用開始予定)



池間大浦線 (池間大橋外) (橋梁長寿命化修繕事業)

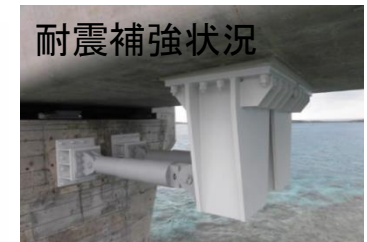
池間大浦線は、池間島と宮古島を結ぶ重要な幹線道路であり、池間大橋は橋長1,425mの長大な離島架橋である。

本橋は厳しい気象条件下にあり、ひび割れが多数認められること、耐震補強が必要であることから、計画的に補修・補強を行う必要がある。

- 総事業費 13.1億円 (うち国費11.8億円)
うち、ハード交付金11.4億円 (うち国費10.3億円)
- 事業期間：平成23年度から平成33年度



池間大橋



耐震補強状況



耐震補強状況



耐震補強状況

ハード交付金の活用事業

市町村事業（北部圏域）

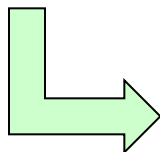
名護市道 山手線 （道路整備事業）

当路線は、名護市東江地区の南端を起点とし、名護博物館前に至る補助幹線道路である。

近傍には、小学校等の教育施設が位置しており、通勤・通学路として利用されているが、幅員が狭いために安全性が確保されていなかった。このため、車道の拡幅と歩道の整備を行い、快適な交通と歩行者の安全確保を図った。

- 総事業費 約26.7億円（うち国費21.4億円）
うち、ハード交付金7.0億円（うち国費5.6億円）
- 事業期間：平成12年度から平成29年度

【整備前】



【整備後】



名護市道 汀間1号線 （道路整備事業）

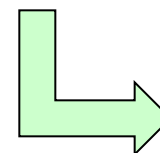
本線は汀間集落内を起点とし、集落の生活道路や体験・滞在型観光地へのアクセスルートとして広く利用されている。

しかし、本橋は車道幅員が狭く、また、架設から約50年が経ち、損傷・劣化に伴う通行規制が行われ、大変危険な状況にあった。このため、車道幅員拡幅に伴う新橋への架替整備を行い、快適で安全な交通の確保を図った。

- 総事業費：約6.5億円（うち国費5.2億円）
うち、ハード交付金3.9億円（うち国費3.1億円）
- 事業期間：平成23年度から平成27年度



【整備前】



【整備後】



ハード交付金の活用事業

市町村事業（中部圏域）

（都）国際センター線外 沖縄都市モノレールインフラ部 （道路整備事業）

沖縄都市モノレール延長事業は沖縄自動車道と連携し公共交通ネットワークを形成することで、沖縄本島中北部から那覇市圏域へのアクセス性を向上させるとともに、自動車交通から公共交通へ転換することで、交通渋滞の緩和に寄与する。

- 総事業費 92.8億円（うち国費74.2億円）
- 事業期間：平成24年度から平成30年度
- B/C：1.74（モノレール事業全体）



うるま市道 安慶名3区線 （道路整備事業）

当路線は、県道8号線を起点に安慶名土地区画整理区域を通り安慶名赤道線へと至る補助幹線道路である。
当路線周辺には安慶名闘牛場等の観光施設があるため、当路線を整備することにより、うるま市中心市街地と周辺観光施設との交通の利便性の確保、市街地の道路網の形成を図る。

- 総事業費 約13.0億円（うち国費10.4億円）
うち、ハード交付金12.7億円
（うち国費10.2億円）
- 事業期間：平成23年度から平成29年度

【整備前】



【整備後】



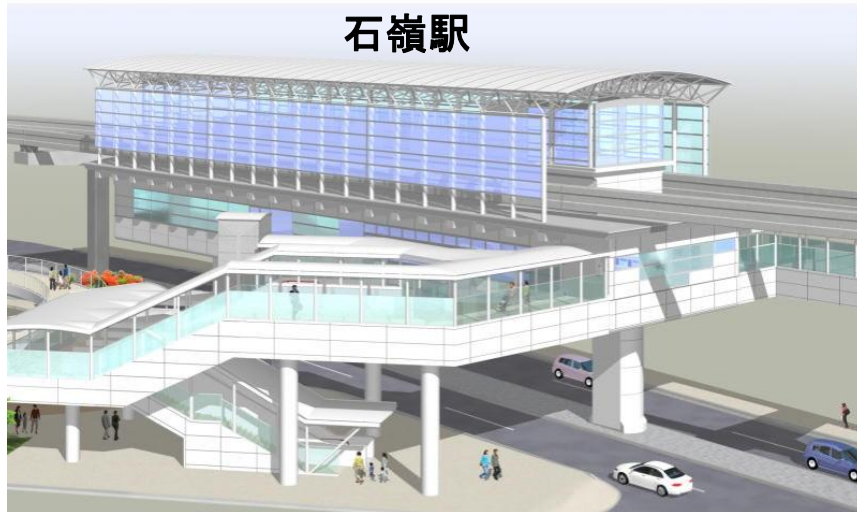
ハード交付金の活用事業

市町村事業（南部圏域）

（都）石嶺線 沖縄都市モノレールインフラ部 （道路整備事業）

沖縄都市モノレール延長事業は沖縄自動車道と連携し公共交通ネットワークを形成することで、沖縄本島中北部から那覇市圏域へのアクセス性を向上させるとともに、自動車交通から公共交通へ転換することで、交通渋滞の緩和に寄与する。

- 総事業費 118.4億円（うち国費94.7億円）
- 事業期間：平成24年度から平成30年度
- B/C：1.74（モノレール事業全体）



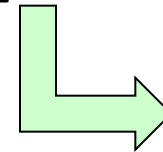
港東浜線 （道路整備事業）

マリントウン東浜地区では、住宅、公園、マリーナ等の開発が進んでいる。東浜地区と与那原中学校、知念高校のある既成市街地は、連結道路が遠いことから、防災避難経路や生活の利便性向上のため、道路の新設整備を行い、安全で円滑な交通アクセスの確保を図った。

- 総事業費 8.5億円（うち国費6.8億円）
- 事業期間：平成24年度から平成27年度



【整備前】



【整備後】

ハード交付金の活用事業

市町村事業（宮古圏域）

宮古島市道 添道1号線 （道路整備事業）

路線周辺には小学校や市営陸上競技場、球場等の多くの公共施設が存在し、観光地へのアクセルルートでもあるため観光バスの通行も多い。しかし、幅員が狭く、歩道が整備されていないため、歩行者にとって危険な状況にあった。このため、車道の拡幅と歩道の整備を行い、快適な交通と歩行者の安全確保を図った。

○ 総事業費：15.7億円（うち国費12.5億円）

うち、ハード交付金8.9億円（うち国費7.1億円）

○ 事業期間：平成19年度から平成30年度

竹原地区 （土地区画整理事業）

本地区は宮古島市の中心市街地から東に位置し、地区内及び周辺の幹線道路はほぼ整備され市街化が進んでいるが、生活道路の整備や老朽化した住宅の生活環境の改善が求められている。そのため土地区画整理事業により公共施設の整備改善を行い、低未利用地の有効利用及びスプロール化を抑制し宅地の利用増進を図る。

○ 総事業費：72億円（うち国費40億円）

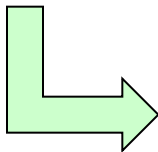
うち、ハード交付金19億円（うち国費16億円）

○ 事業期間：平成17年度から平成34年度



【整備後】

【整備前】



ハード交付金の活用事業

市町村事業（八重山圏域）

石垣市道 3・5・18号線 （道路整備事業）

当路線は、国道390号バイパスを起点とし3・5・20号線へ至る補助幹線道路である。

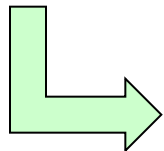
当路線は通学路及び石垣中央運動公園へのアクセス道路となっているが、幅員が狭く歩道も未設置となっている。整備を行うことにより、安全性、避難路としての機能確保を図ることができる。

○ 総事業費 約6.9億円（うち国費5.6億円）

うち、ハード交付金1.6億円（うち国費1.3億円）

○ 事業期間：平成17年度から平成28年度

【整備前】



【整備後】



竹富町道 上原4号線外 （道路整備事業）

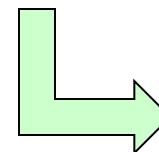
本路線は、県道白浜南風見線と上原集落を結ぶ生活道路であるが、幅員が3～4mと狭小のうえ未舗装及び袋小路となっており地域住民に不便を来していた。このため、本路線を整備することにより、車両の快適な交通を確保し、住民の安全で快適な住環境の改善を図った。

○ 総事業費 0.35億円（うち国費0.28億円）

○ 事業期間：平成26年度から平成27年度



【整備前】



【整備後】

